

029  
264  
1

小河多

河子居撰



027  
264  
1

知安  
第 11426 號  
書

陸  
美  
印

陸  
美  
印

瓜  
時  
雨

芭蕉忌

六十勅一

叔孫の六十勅をたると一  
我柳洛の双林寺に力く  
む信喜と傳へり、諸公に  
以て書りはよむ或は文通  
とてとていへるを おれ



此福もよくあるぬ 予も  
 その更會し席ともあけりぬ  
 悪く席の法會を強く勸ぐ及  
 さりしつ打つてし自畫其像  
 あれしつ俗の道中をありて  
 幸ひ回れぬさより又十勸の  
 多き心然るをしと云評に  
 踊りておせしやそれや善なる

一軸に方右の傍と濁し  
 松樹の深色し予右に袖とかけ  
 りふれ各縁とよ向んとし  
 此多し小まなれこれ縁もあんと  
 了しこふ深意の時と題する  
 物ふ

何と云ふ

氣配りれよ向や座しきとこれ

自畫

幸ひ小まなれ名しお河海深 百指

あり何れも加さる女中一々 有智

婦り茶と新し殿の御別 有南

襦しあり入れはるり日和を 三江

地とてん遠く垣もやを 栢島

初音と第もささく候り 芳水

上丸裕々わろく小包 百介

味くさり丸款とわたり 三叶

各録

かゝ湯の付巾一ツ時を 百根

筆書並れ陰とたのやむ時を 三三

浮きも手繰りしより川時を 三叶

讀混坐録

混坐のひりりくやしつ河而 菊想

右るま名と河而而也於本坐 柳菊

うけあふて混坐河而や子向水 可表

袖ゆりいれ一れまの河而水 柳京

まの河而香とるまや 柳河而 左南

混坐の右れは一れつて河而水 右外

一河而香も香あり 子向水 香外

口取

つ混坐一覽しふふと右外

つ混坐つ混坐つ混坐

つ混坐つ混坐つ混坐



宮人保奏 十月中迄

京町三系下

橋治板

幸得解も在る所  
之は如く御座りし法言の事  
此の御座りし御座りし  
之は御座りし御座りし  
之は御座りし御座りし

十月丁酉

五竹居

何事也之入

